

特集

最新鋭の高磁場
3T(テスラ)MRI装置を導入……………2・3P

各科日より

病理診断科の役割

病理診断科

4P

「スキンケア」で弱くなった皮膚を守るために

皮膚排泄ケア認定看護師

5P

薬剤師が患者さんの薬物療法を支えています

薬剤科

6P

栄養バランスでフレイル予防！

栄養科

7P

入院・お見舞いののご案内

8P

院長伝言板……………8P

市立砺波総合病院憲章

わたしたちは、市立砺波総合病院の職員であることを誇りとし、愛と奉仕の精神のもとに、病気で悩める人々を癒すことに互いの心を結集し、この憲章を定めます。

市立砺波総合病院は

- 1 患者さんの権利を尊重します
- 1 医療の安全を追求し 信頼される医療を提供します
- 1 医療・福祉・介護・保健分野との連携に努め 地域医療の推進に努めます
- 1 職員が働く喜びと誇りの持てる職場をめざします
- 1 健全な病院経営に努めます

理念

地域に開かれ
地域住民に親しまれ
信頼される病院



市立砺波総合病院
Tonami General Hospital

〒939-1395 富山県砺波市新富町1番61号
TEL 0763-32-3320(代表) FAX 0763-33-1487(総務課)
E-mail tgh-somu@city.tonami.toyama.jp
ホームページ <http://www.city.tonami.toyama.jp/tgh/>

最新鋭の高磁場

3T(テスラ)MRI装置を導入

放射線技術科 MRI室

当院では昨年10月に最新鋭の3T(テスラ)MRI装置(Philips社製 Ingenia Elition 3.0T)が導入されました。最新鋭の検査技術と、ストレスの少ない検査環境を整えることにより、患者さんの負担を軽減させ、より質の高い画像を提供することが可能です。

●MRIとは

Magnetic Resonance Image(磁気共鳴画像)の略で、強い磁力と電波を用いて、あらゆる方向から体の断面を撮像する検査です。Tはテスラと呼び、磁力の単位を表す言葉です。3.0Tは診断で使用できるMRI機器の中で最も強力な磁力を有しています。これにより、MRI検査はレントゲン検査やCT検査と違い、被ばくすることはありません。MRI検査は全身の検査が可能です。特に脳の病気や関節疾患、前立腺がんなどの診断に威力を発揮します。

●画像の特徴

- 3T MRIでは、より高い解像度で高分解能な検査が可能です。これまでわかりにくかった小さな病変がより鮮明に描出され、もしくは小さな異変も発見しやすくなり、病気の早期発見と早期治療に大きく寄与することとなります。
- 血管系の描出においても、造影剤を使わずに鮮明な画像を撮像することが可能で、1.5T装置に比べ細い血管まできれいに描出できるようになりました。
- 下肢動脈の撮像においては、画質が向上し、撮像時間も従来よりも短くなりました。また造影剤を用いない撮像のため、腎機能の悪い患者さんや造影剤アレルギーが

ある患者さんでも選択できる検査として最適です。

●泌尿器科領域の検査では、拡散強調画像という手法を用いて、前立腺がん・膀胱がんなどの悪性腫瘍の評価が可能です。また、クルミ大程の小さな臓器である前立腺でもより高分解能に詳細な拡散強調画像を撮像することが可能です。



● 検査環境について

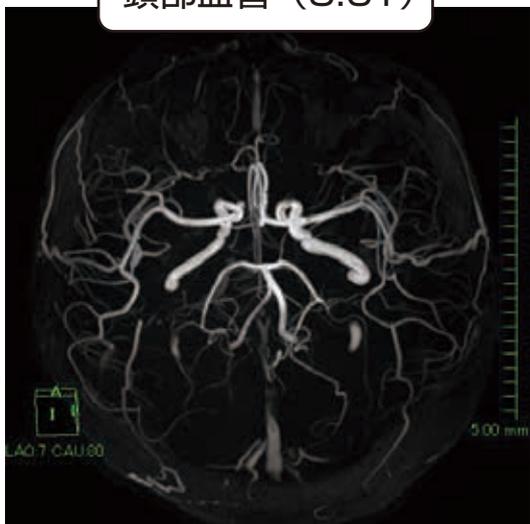
- 装置の筒状の穴が70cmとワイドな仕様になり、従来(60cm)に比べ、圧迫感の少ない環境になりました。閉所恐怖症の方でも検査を受けやすい環境になりました。
- 最新の高速撮像技術により、一部の検査では従来よりも検査時間の短縮が可能になりました。また余裕が出た時間を画質の向上に活用することができ、特殊検査の追加などが可能です。
- 小児の検査では、検査中の騒音を小さくするアプリケーションを導入しています。
- 腹部領域の検査においては、息止めができない方には、息止め不要の撮像技術により、ズレの少ない画像を撮像することができ、診断能の向上に寄与します。



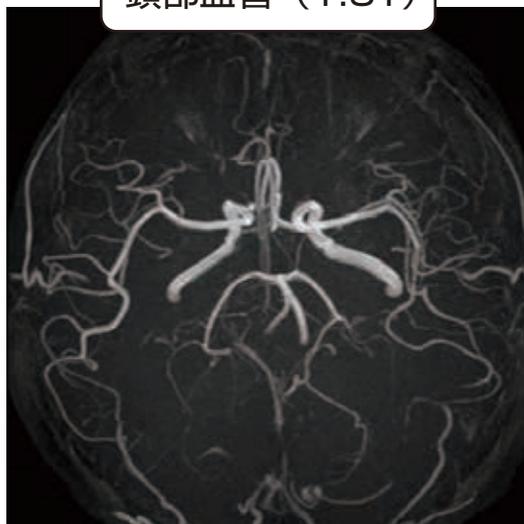
当院では、これまでMRI装置は1.5T装置2台での運用でしたが、この最新のMRI装置導入により、3.0T MRI装置、1.5T MRI装置がそれぞれ1台の2台になりました。検査内容によっては3.0T MRIが向かない検査もあります。また体内に金属がある患者さんの場合、1.5Tに比べ特に注意が必要です。

MRI室では、今後とも良質な画像を提供することで、安心と満足をご提供できるように貢献していきたいと考えております。

頭部血管 (3.0T)



頭部血管 (1.5T)



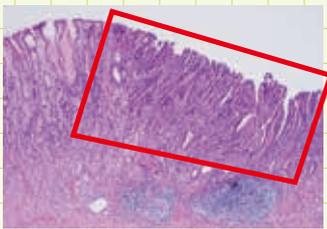
病理診断科の役割

わが国では「がん」は死亡原因の1位になっており、国立がん研究センターの統計では一生のうちで男女とも2人に1人はがんに罹患し、男性では4人に1人、女性では6人に1人「がん」で死亡すると言われています。

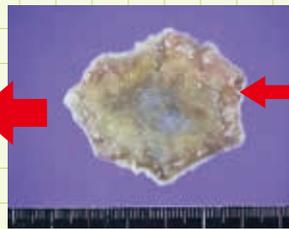
がんは治らない病気というイメージを持つ方も多いと思いますが、がんにはそれぞれ種類と進行度がありその予後※は様々です。初期のがんにおいては癌化した組織を取り除いたりすることで治癒する可能性が非常に高いと言われています。その中でも特に粘膜内がん（上皮内癌）といわれる「がん」は、内視鏡や手術などでその部分の組織を切除することで完全治癒することができま

す。また、これらの早期がんは進行がんとは比べると治療も軽くすむことが多いので、患者さんにかかる身体的負担や経済的負担、時間は一般的に少なくてすみます。現在、広く行われているがん検診は、がんを早期に見つけ死亡率を減らすことが目的ですが、がんだけではなく、婦人科検診や大腸カメラでがんになる前段階の病変が見つかることもあります。

早期胃がんの組織像

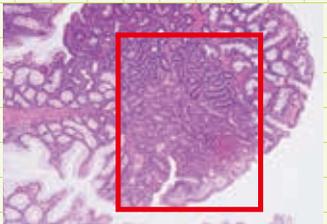


早期胃がんの画像(ESD)

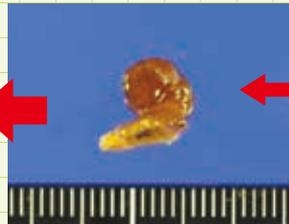


胃がん5年相対生存率	
I期	94.6%
II期	68.5%
III期	45.1%
IV期	9.0%

早期大腸がんの組織像



早期大腸がんの画像

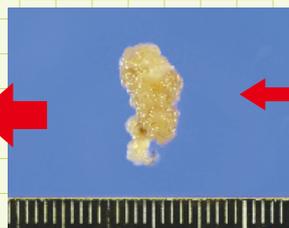


大腸がん5年相対生存率	
I期	95.4%
II期	88.1%
III期	76.5%
IV期	18.7%

早期膀胱がんの組織像



早期膀胱がんの画像



膀胱がん5年相対生存率	
I期	88.1%
II期	61.9%
III期	45.2%
IV期	19.1%

※5年生存率：国立がん研究センターがん診療連携拠点病院等院内がん登録 2009年から10年

病期分類

I期	早期がん(転移なし)
II期	↓
III期	
IV期	進行がん(転移あり)

赤枠内がん細胞

病理診断科

寺畑 信太郎

病理診断科では、内視鏡室や各科外来、手術室で患者さんの病変から採取された組織検体が年間4000件以上提出されます。その組織や細胞からガラス標本を作り、常勤の病理医が顕微鏡で観察して診断しており、これを「病理診断」といいます。最終診断として大きな役割を果たし、がんの早期発見や早期治療に貢献しています。

その他にも病理診断科で次のような検査を行っています。

細胞診検査

膀胱がんや肺がんでは尿や痰の中にがん細胞が出現することがあります。これらの細胞を検査するのが細胞診検査で、専任の細胞検査士が病理医とともに診断しています。組織診と比べ患者さんへの負担が少ない検査です。

病理解剖

治療の甲斐なく不幸にして亡くなられてしまった場合、ご遺族の承諾のもとに病死された患者様のご遺体を解剖させていただくことが病理解剖です。生前の診断は正しかったのか、どのくらい病気が進行していたのか、治療の効果はどれくらいあったのか、生前不明であった合併症の有無、死因は何か等を判断します。

※予後とは…病気・手術などの経過

「スキン-テア」 ～弱くなった皮膚を守るために～

スキン-テアってなに？

最近耳にする「スキン-テア」とはなにか。

摩擦・ずれによって、皮膚が裂ける状態のことをいいます。具体的には、ほんそうこう絆創膏を剥がすときに皮膚と一緒にめくれた場合や転んだ時に皮膚が裂けた場合などさまざまな場面で発生し、特に高齢者に多くみられます。一度発生すると再発しやすいため、予防することが大切です。



どんなときに起こりやすい？

- 絆創膏を剥がしたとき
- 転倒したとき
- ベッド柵にぶつけた
- 車椅子に乗るときにぶつけた
- 入浴や着替えを介助した時に

どんな方がスキン-テアになりやすい？

皮膚の弱さ

- ステロイド薬・抗凝固薬を長期間服用している
- 抗がん剤・放射線治療をしたことがある
- 透析をしている
- 食事がしっかり摂れない
- 皮膚が乾燥している
- 皮膚に皮下出血斑がある
- 浮腫（むくみ）がある



1つでも当てはまる項目があったら、予防ケアが必要です。

摩擦やずれ

- ものにぶつかりやすい
- よく転ぶ
- 寝返りや着替えの介助を受けている
- 医療用テープを貼っている
- リハビリテーションをしている



どのように予防するの？

1. 手足を保護しましょう

- 長袖、長ズボンを着用しましょう
- アームカバー・レッグカバーを着用しましょう



2. 周囲を整えましょう

- ベッド柵や家具の角などにカバーをつけましょう



3. 優しく体を洗いましょう

- 熱いお風呂は避けましょう
- こすらずに洗いましょう



4. 保湿剤を塗りましょう

- ローションタイプの保湿剤を優しく塗布しましょう
- 1日2回以上塗布しましょう



5. 食事と水分をしっかり摂りましょう



6. 手足は下から支えるように持ちましょう



○
下から支えるように保持

×
握る、つかむ

もし、スキン-テアが発生したら？

- 傷口に張り付きにくいガーゼやパッドを当てましょう
- 困った時は、病院で相談しましょう

皮膚科もしくは形成外科にご相談ください



薬剤師が患者さんの薬物療法を支えています

薬剤科には現在、18名の薬剤師が在籍しており、5名の助手とともに日々「くすり」に関わる仕事をしていきます。今回はその中でも主なものを紹介します。

私たち病院薬剤師は、薬の専門家としてより安心していただける薬物療法を提供することを心がけ、病院の中で使われるすべての「薬」について、安全で効果的に使用されるように関与しています。

医師の処方に基づく調剤、薬の管理、薬の説明や服薬支援以外にも、次のような仕事を行っています。



◆医薬品情報◆

薬が安全に使用されるように、つねに最新の医薬品情報に目を通しています。その中から、薬に関する様々な情報を受け取る人がわかりやすいように加工し、患者さんや医師や看護師などの医療スタッフに提供しています。

◆教育◆

当院では薬学部実務実習を受け入れています。次世代を担う医学部や薬学部の学生に対し、薬の専門家として、薬の適正使用に関する教育を行っています。

◆受診時のお願い◆

患者さんの安全な薬物療法を確保するため、受診時にはお薬手帳を持参していただきますようお願いいたします。

◆チーム医療の推進◆

医療に関わる専門スタッフが、それぞれの分野を生かして分担・連携し、より良い医療を提供しています。そのような中、薬剤師はチーム医療の一員として、栄養管理やがん化学療法をはじめ、医療安全に関する感染制御や褥瘡（床ずれ）の予防、糖尿病療養支援、緩和医療などの様々な分野で活躍しています。



◆薬学的ケア◆

入院時には患者さんの使用しているお薬の確認を行い、新たなお薬との飲み合わせなどをチェックします。患者さんとお話した内容を記載した服薬支援の記録には、過去の副作用や薬の効果の有無など多くの事項についても確認記録しています。例えば、肝機能や腎機能の程度を確認し、患者さんに使われている薬の体内での動きを予測し、副作用の初期症状が出ていないかをカルテで確認します。また、退院後も継続した薬物療法が実施されるように入院中の情報を他職種と共有しています。個々の患者さんに対して医薬品が適正に使用されるように、薬物療法の有効性と安全性を確保する役割を担っています。

◆注射剤の調製◆

注射剤は体内に直接投与するために、無菌かつ正確な作業を求められます。混ぜてはいけない薬や投与量の確認などを行い、安全性を確保しています。

薬によっては血液中の薬の量を測定し、個々の患者さんに最も適した薬の量や投与する間隔を決めることで、薬の効き過ぎによる副作用を防ぎ、より安全に薬の効果を得られるような支援も行います。



栄養バランスでフレイル予防！

外出を控える動きが広まる中、食事量や運動量が減少すると、筋力や身体機能が低下し、要介護に至る前の段階「フレイル」になる可能性があります。



「フレイル」とは・・・

病気ではないけれど加齢とともに運動機能や認知機能等が低下し、カラダが弱った状態をいいます。フレイルになると感染症にかかりやすくなったり、転倒しやすくなったり、放置すれば要介護状態につながる可能性もあります。

フレイルチェック

- 体重が減った
(一年で体重が4.5kg以上、自然に減少)
- 疲労を感じることもある
- 筋力が低下したと思う
- 歩くスピードが遅くなってしまった
- 外出する機会が減った

チェックが1～2つは
フレイル予備軍
3つ以上はフレイルです

食事を3食しっかりとれていますか？どんなものを食べていますか？

長期保存が可能なインスタント食品や、「おにぎり」、「菓子パン」だけのような食事を続けると、栄養バランスが炭水化物に偏ってしまいます。

栄養バランスが崩れると、低栄養状態となり、筋力や筋肉量も減少していきます。

筋力が低下すると、ますます消費エネルギー量や食事量が低下し、身体機能にまで影響していきます。このような悪循環を繰り返しながら、フレイルは進行していきます。

筋肉のもとになる肉や魚、大豆などのたんぱく質をしっかりと摂ることが大切です！

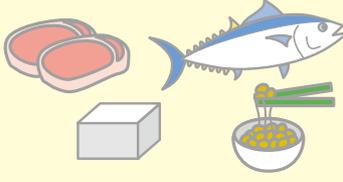
1日に摂りたいたんぱく質はこれくらい

卵、乳、乳製品



卵1個+牛乳1～2杯+ヨーグルト1個

肉、魚、大豆製品



薄切り肉+切り身魚1切+
納豆1パック+豆腐1/6丁



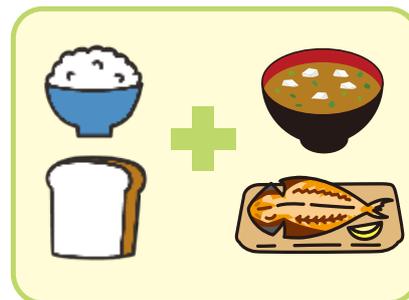
フレイル対策には、
高齢の方も若い人と同
じくらいたんぱく質を
摂る必要があります。

※食事に制限のある方は主治医の指示に従ってください。

健康体力アップのための食事ポイント

- ・1日3回（朝食・昼食・夕食）しっかり食べましょう。
- ・主食（ごはん）、主菜（たんぱく質のおかず）、副菜（野菜のおかず）を組み合わせる。
- ・たんぱく質のおかず（肉・魚・卵・豆類）は必ず食べましょう。

少ししか食べられないときは、おかずを優先して食べる、食事の回数を分割して食べるなどの工夫をして食べましょう！



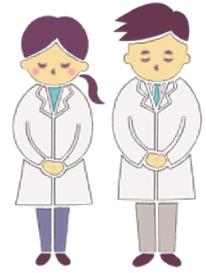
※ご不明な点などございましたら、主治医または栄養科までご相談ください。



入院・お見舞いのご案内

全国的に感染者が増えている「新型コロナウイルス感染症」の院内感染を防ぐため、令和2年3月6日から、**面会を禁止**しています。

やむを得ない事情がある場合、まず職員に相談願います。健康調査、マスクの着用、せっけんや手指消毒剤での手の消毒、そして、面会中は「面会証」の携帯をお願いします。なお、体調の悪い方は面会をご遠慮願います。



また、入院患者さんへのメッセージカードを準備しておりますので、ご希望の方は職員へお申し付けください。

入院患者さんが安心して入院生活を送ることができるよう、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



院長伝言板

新型コロナウイルス感染症から 自分自身・ご家族を守りましょう

新型コロナウイルス感染症は世界的に拡大しています。日本でも拡大期に入ろうとしています。特に若い人では軽症の方が多いと言われていますが、その若い方からご家族のご高齢の方に感染し命に関わる例が海外では多数報告されています。4月7日には緊急事態が宣言されました。「咳エチケット」「手洗い」などの通常の対策に加えて、不要不急の外出を自粛することが求めら

れています。人との接触をこれまでの8割減らすことで社会へのダメージを最小限に抑えることができます。地域のみなさんひとりひとりの行動に自分自身・ご家族の命がかかっています。

砺波総合病院でも院内感染を防ぐために3月6日から面会を禁止しています。ご協力よろしくお願いします。

※最新の情報として掲載しています。

『患者さんの権利を守るために』

1. 当院では、病気を克服しようとしておられる患者さんの人権を尊重し、その経済的・社会的地位、年齢、性別、疾病の種類などにかかわらず平等で最良の医療を提供します。
2. 当院では、患者さんと一緒に病気を克服するために、患者さんが既に実施された診療の内容と、これから行われようとする検査、及び治療の目的、方法、内容、危険性、治療の見通し及び、これに代わる他の治療法について十分説明し、さらに患者さんの治療に対する希望もお聞きし、相互の理解を得た上で、医療を行います。
3. 当院では、患者さんの希望があれば原則として、患者さん本人にカルテを開示いたします。また、他の医療機関にかかり意見を求めるためや、他の医療機関に移られるときには全ての情報をお渡します。
4. 当院では、患者さんのプライバシーを守るために、患者さんの承諾なく当院の医療従事者以外の第三者に患者さんの情報を開示いたしません。
5. 患者さんの権利には義務と責任が伴います。

以上を守り診療することを約束いたします。

診療案内

外来診療受付時間

□ 新患 午前 8 時 15 分から午前 11 時まで

□ 再診 午前 8 時 00 分から午前 11 時まで

※診療科・曜日によって異なりますので、詳しくはお問い合わせください。

休診日

土・日・休日および年末年始